鶏解剖実習を受けての感想

今回はこの解剖実習は大変内容の濃い充実したものであったと感じました。まず二人で一羽のブリオリーを解剖するというところが普段している解剖と異なっており、いつもよりも解剖という作業に真剣に取り組むことができました。二人で一羽ということであったので自分がする作業も多くなり、解剖の方法や手順といったものがよく身についたと感じました。

また今回の実習は一羽につき一人の教官がついて下さり指導をしていただいたので、非常に作業がやりやすかったです。分からないことなどもすぐに聞くことができ、また指導も丁寧で分かりやすかったです。目の前でやり方を見せていただき、さらにすぐに自分でやることができたのでどのような順序で、またどういった点に気をつけておけばいいのかなどが理解しやすかったです。

そして鶏の解剖はよく知らなかったのですが鶏の臓器の並び方や神経、そして鶏に特有の器官などの位置を詳しく教えていただきました。実物を見ることができ実際どのあたりにあるのか、どのように実物は見えるのかを確認することができました。自分たちで解剖して臓器などの位置を確認したので印象が強かったです。

今回の実習はやはり自分で多くの作業をできたことが良かったと感じました。自分で作業をすると印象も強くなり、興味も湧いてくるので身に付くことも多くなった気がしました。今回の解剖実習だけで鶏の解剖について多くの知識を得ることができたのではないかと思います。また教官の方がずっと見て下さったこともとても良かったと感じました。二人という少人数の班であり、教官の方もずっといて下さったので質問もしやすく、様々な話も聞くことができました。今回のような実習のやり方は解剖の手順を学ぶ上で良いのではないかと感じました。
鶏の剖検実習を行っての感想

今回鶏の剖検を行って初めて思ったことは、自分はどれだけ一年時の鶏の解剖をすっかり忘れていたのか、ということです。
おそらく一年の時にも同じことを行ったのでしょうか（お湯につけて羽をむしりやすくすること、腹腔を開いたら肝臓しか見えなかったこと、皮は簡単に剥皮できたことは覚えていた）、胸筋を外すには肩甲骨の関節を外さなくてはならないとか、ファブリキウス囊は縦排泄座位の背側に存在するとか、肺が肋骨の間に埋まっているとか、腎臓は三つに分葉しているとか、盲腸扁桃の存在だとか、実を言うと全く覚えていませんでした。ころうじて消化管の構造は覚えていましたが。

今回の剖検はそれを考慮してくださって、午前の家禽疫病学の時間に詳しい剖検の手順を丁寧に指導していただき、実際に剖検を行った午後の実習は非常にスムーズ、かつ有意義に進めて行けたのではないかと思います。さらに、大勢の先生方を招いて学生二人に対して一人の指導者という万全の態勢で剖検に臨むことができ、一年時に行った解剖学実習よりも充実していたのではないかと感じました（笑）検体に関しても学生二人に対して一羽という充実っぷり。先生方のご指導の甲斐もあって鶏を隔から隔まで観察できました。

欲を言えば、もう少し腐敗の進行が激しくない個体の解剖をさせていただいていたら、なおよかったのでは思います。なぜせ戻しても剖検と銘打っているにも関わらず、正常な状態の部分が胃、そのほかには筋や骨などの運動器ぐらいしかなかったもので、充実性の鍵器はほとんどとろけていて、観察どころか摘出すままならない状態でした。さらにゴム手袋をしていたにも関わらず、強烈な腐敗臭が手指に染みわたり、再三にわたる手洗いにも負けずに手が腐敗臭を放っていた次第です。

以上のことを除けば本当に面白く、ためになる実習だったと思います。担当していただいた先生はとてもわかりやすく、丁寧、親切に解説していただきましたし、ただ遠くから眺めているだけの実習ではなく、実際に手を動かす実習の大切さを実感できた時間だと思いました。他の授業も午前中座学、午後実習にすると効率がよいのではないかとも思いました（笑）
家禽疾病学　鶏解剖実習の感想

今回の鶏の解剖は２人で１羽ずつ解剖することができたので、細かいところまでよく分かり、色々と見ることができてとても勉強になりました。また先生方も大勢いらっしゃり、わからないところもすぐに聞くことができたのでとてもよかったです。

鶏の解剖は、今までやってきた牛などの哺乳類の解剖とは大分違ったとても興味深かったです。腎臓が３つに分かれていることや、坐骨神経がとても太くて明瞭なこと、メケル憩室がはっきり見えたことがとても印象に残りました。胸腺もとても分かりやすく、甲状腺を見つかったときは「これが甲状腺だー！」と、とても嬉しかったです。肺も肋骨の痕がはっきりとあり、午前中の講義で聞いていた通りでした。気管というものがよくわからなかったのでぜひ見てみたいと思っていたのですが、私の班の個体はそこまではっきりとは見えず、この膜っぽいのが気管などという感じでした。

解剖を理解していると、「どこどこに病変ができる」と言われてもイメージしやすく、解剖学はとても大切だと感じました。

やはり教科書だけを見ていたのではよくわからないところも沢山あるので、このような直接自分で手を動かし、見ることができる実習はとても有意義だと思います。これからも続けてほしいです。午前中に解剖の術式をしっかり教えてもらったのもとてもよかったです。

これから家禽疾病学の講義も始まるので、今回の実習を活かして勉強していきたいと思います。

私たちの実習のために多くの鶏を用意してくださり、術式のご指導をしてくださった先生方にお礼申し上げます。ありがとうございました。
家禽疾病学　鶏解剖実習の感想

今回の鶏の解剖は2人で1羽ずつの解剖することができたので、細かいところまでよく分かり、色々と見ることができてとても勉強になりました。また先生方も大勢いらっしゃり、わからないところもすぐに聞くことができたのでとてもよかったです。

鶏の解剖は、今までやってきた牛などの哺乳類の解剖とは大分違ったとでも興味深かったです。腎臓が3つに分かれていることや、坐骨神経がとても太くて明瞭なこと、メケル憩室がはっきり見えたことがとても印象に残りました。胸腺もとても分かりやすく、甲状腺を見つけたときは「これが甲状腺だー！」と、とても嬉しいです。肺も肋骨の痕がはっきりとあり、午前の講義で聞いていた通りでした。気管というものがよくわからないのでぜひ見てみたいと思っていたのですが、私の班の個体はそこまではっきりとは見えず、この膜っぽいのが気管かな～という感じでした。

解剖を理解していると、「どこどこに病变ができる」と言われてもイメージしやすく、解剖学はとても大切だと感じました。

やはり解剖書だけを読んでいたのではよくわからないところも沢山あるので、このような直接自分で手を動かし、見ることができる実習はとても有意義だと思います。これからの実習を続けたいです。午前中に解剖の術式をしっかり教えてもらったのもとてもよかったです。

これから家禽疾病学の講義も始まるので、今回の実習を活かして勉強していきたいと思います。

私たちの実習のために多くの鶏を用意してくださり、術式のご指導をしてくださった先生方にお礼申し上げます。ありがとうございました。
鶏の解剖実習を受けて

鶏の解剖学については、授業で少し学び、一度皆で実習しただけだったので、あまり身についていなかったように思います。しかし、今回は二人につき一羽を割り当てていただいたので、詳しく観察することができました。皆で実習をすると、どうしても見ているだけになりがちで印象が薄くなってしまうけれど、今回のように自分で考えながら自分の手で解剖すると、とても勉強になると思いました。肺が肋骨の間に入り込んでいたり、腎臓が前腎・中腎・後腎の三つに分かれていること、ファブリキウス囊が排泄腔付近にあることなど、今まであいまいだった臓器の位置や忘れていた特徴などが再確認できました。また、メスケル憩室をなかなか見えずれず調べかけていましたが、なんとか見つけることができて嬉しかったです。ただ、私の班だけだったかもしれませんが、周りで見ていた講師の方々にあまりアドバイスしていただけず、残念でした。しかし、このような貴重な機会に恵まれてよかったと思います。駆けつけただされた講師の方々、末吉先生、ありがとうございます。
鶏の剖検感想

先日は、鶏の解剖という非常に貴重な機会を設けていただき、ありがとうございました。まず、ブロイラーオ体を見たことが無かったので、その大きさに驚きました。ふだん、鶏肉を食べる機会が多いのですが、その食べる部位がどのように身体に付いているか、観察してみるようと思いました。翼神経叢の観察では、はっきりと太い神経が観察でき、やはり翼に行く神経はこれぐらいの太さのものだと感じました。皮膚を切開していく時、手でほとんど行える事に驚きました。鳥の皮は、食べるとなかなか噛み切れませんが、生で、（しかも少し腐りかけ）の状態だと柔らかいのですなと感じました。胸肉は、立派なもので、とても、もう飛べない鶏がなぜこの部分に筋肉が付くようになるのか不思議に思いました。私たちが解剖した鶏は、大腸菌症で、胸骨を除去すると、かなり腐敗がすすんでいました。癒着が激しく、私たちはおぞろおぞろ解剖していたのですが、先生方の大胆で正確な手さばきには圧倒されました。砂すりの部分や、レバーは、1年生の時の解剖の授業でどのようになっていたか覚えていましたが、気管やメッケル憩室、盲腸をよく観察できて良かったです。しかしながら、豚や牛の腸は食用として売られていますが、鶏の内臓はそれほど見かけないことが不思議でした。先生に質問してみると、その処理に手間がかかるからだということでした。坐骨神経は観察できましたが、緩めたときに縫状になるのは観察できませんでした。

今回の剖検をとおして、家禽疾病の講義等で病変の特徴等を挙げる際、具体的な部位を想像できるようになったことがとてもよかったと思います。また、解剖以外に、いろいろな先生方の経験談やお話を聞けたことがとても楽しかったです。
鶏・病理解剖実習感想

先日行った鶏の病理解剖実習は、普段は主に牛などの哺乳動物を解剖している自分にとって非常に新鮮で興味深いものであった。鶏の解剖は数年前に解剖学実習で行ったときで、その実習は動物種の形態の違いを観察する、いわゆる比較解剖学であったため今回のとはかなり方法が異なっていたこともあり、今回の実習は今後病理をやっていく上でこの上なく重要でもあった。実際、数ヶ月前に水鳥の病理解剖を行ったことがあるが、方法がよく分からず、講座の先輩方から言われたとおりにやるのが精一杯であったため、この実習は非常に有難かった。

今回の実習で特に難しく感じたのは、背側からの肩甲骨へのアプローチや胸骨を外す部分など、鶏の骨格に関する場面だった。単純に普段扱う哺乳動物と比べて身体が小さいことや、骨格のベースは同じにしてもアプローチの方法が全く異なることなどが原因であったと思う。これらを解決していくには、実際に場数を踏むほか、解剖学の復習をする必要があると言う感じ。

最も興味深かったのは、鶏の死後変化の早さであった。講義でも死後変化が早いという状況があったが、その原因については話されなかった。今までに行った剖検は死亡してから迅速に行ったり、冷蔵あるいは冷凍にて保存しているため、それほどの死後変化は起こっていなかったが、今回の鶏は強い腐臭を放っていたり、あるいは腎、脳などの著明な軟化が起こっていたなど、その死後変化的早さを目当てにしたのが、その原因が分からなかった。基礎体温の高さなどがその一因ではないかと思うが、実際はどうなのかだろうか。個人的に考察をしてみたいと思った。

今回の実習では事前に解剖についての講義があったため、午後の実習が非常にスムーズにでき、非常に元気になった。講義自体も画像が多く、とても理解しやすかったと思う。ただ、今回の検体がすでに死亡していたものだったために、採血〜血液塗抹の流れができなかったことも、死後かなり経過していたために諸器官の死後変化が強く、十分な観察が行えなかったことが残念だった。

今回の実習は、病理解剖の経験を上乗せするとともに、解剖学の重要性の再認識することができたことなど、非常に有用な経験となったので、このような実習は来年以降の4年生にとっても経験して欲しい。是非ともまた来年以降も家禽の病理解剖学や感染症の講義をご教授願いたいと思う。
感染症実習 養鶏解剖の感想

今回、初めて鶏の解剖を行って大変良い経験になりました。普段解剖している牛をはじめとする哺乳動物とは全く構造が違い、とても驚きました。

まず、最も印象に残っているのは呼吸器の構造です。横隔膜がなく、肺の形状は哺乳類と異なっており、胸郭や肋骨に発着していました。肺ははっきりとした形状をしておらず、一見全く別の臓器のようにみました。ガス交換は肺と気管によって行われており、呼吸する際に哺乳類のように肺が膨らむことはないと聞いて、改めて勉強になりました。気管支は先端が独特な形状でとても柔らかく、哺乳類のホースのような質感ではありませんでした。

また、胸筋をはずし開腹してすぐに巨大な肝臓があり、その上部の中心に心臓があったのも印象的でした。肝臓は哺乳類と似た色調と形状をしており、心臓も哺乳類のものと形状は類似していたのが心筋が柔らかく、隔壁が太いと感じました。

次に、生殖器の位置も意外なところでありました。哺乳類では精巣は下腹部より下に位置しているが、鶏では腹部付近にあり、概観も哺乳類のものとは全く違っていました。精巣の付近に腎臓があり、腎臓は精巣に比べてとても巨大で、広範囲にわたって位置していたのが印象的でした。また、腸管は哺乳類のものとほぼ類似していました。メケル憩室は見つけることができませんでしたが、隔の仮の検体をみることができました。死亡して時間が経つと収縮して見つけることがあるそうです。下腹部のほうにはファブリキウス囊があり、初めて直接その位置と形状を確認することができました。

今回の鶏の解剖実習で、今まで分からないことも解剖の手順を学ぶことができました。臓器の位置や形状など、哺乳類の構造とは全く違っていてとても勉強になりました。協力してくださった多くの先生方に感謝し、これからの勉強にいかしていきたいと思います。
鶏の病理解剖実習の感想

鶏の病理解剖は牛など他の動物と手順が全く異なっていて驚きました。さらにいつもの実習と違い、検体が2人に1羽で、実際に自分で最初から最後まで手を出すことができたのでとてもいい経験になりました。ただ、急いでいて見逃したり時間がなかったりで、甲状腺、上皮小体、気襄、副腎、坐骨神経、脊髄腰膨大部、大腿骨髄髄など、見ることができなかったところがたくさんあったのでそれがとても残念です。また、今回の実習のためにわざわざ出向いていただいた先生に対して大変失礼かもしれませんが、ついてくださった先生にあらり積極的に指導していただけなかったので、来年この実習を受ける学生のためにもできればもう少し改善していただけるとありがたいです。一から十まで全て手を出してほしいというわけではありませんが、せめて質問したときにそれが理解かどうかくらい他の先生に尋ねなくてもわかっていてほしいです。どうぞよろしくお願いします。
まず、実習前の講義ですが、あらかじめ予習ができて、凄く為になりました。来年からもこの方法が良いのではないでしょうか。
解剖実習は担当して頂いた先生に丁寧に解説して頂き、非常に勉強になりました。（というか、重要な箇所は代わりにやっていただいたので、ちょっと申し訳なかったですが…）
僕たちの班は甲状腺、及び胸腺や坐骨神経などがうまく見ることができ助かりました。脳出しに関しても比較的検体が新鮮だったのか、腐食していることもなくキレイに観察できました（ただその際、脳実質を傷つけてしまい、迷惑をかけてしまいましたが）。
また、本来精巣のことを『副腎』などと言ってしまい恥ずかしく思いましたが、精巣があんなに上腹部にあったことは盲点だったので勉強になりました。
最後に、今回の実習に携わって頂いた先生方に御礼を申し上げるとともに、来年以降も後輩の実習に教鞭をあたって頂きますよう、よろしくお願いいたします。
鶏の解剖実習を終えての感想

鶏の解剖は1年生の時の解剖実習で1度だけやった気がしますが、当時は予備知識もまま解剖していたのであまり覚えていません。今回の解剖実習では午前中にわかりやすい手順の説明もあり、さらに2人一組で先生がそれぞれの組に1人ずつついてくれるという体制で、自分で実際に手を動かし、わからないことは気軽に聞くことができてとても記憶に残る実習となりました。

鶏を解剖して、哺乳類の臓器の構造との違いには改めて驚きました。横隔膜がないこと、筋胃と腺胃があること、腎臓の形や心臓の形が哺乳類とは全く違うことなどいろいろ新鮮なことばかりでした。私が解剖した鶏は貴重な種鶏で、腹部の皮膚が暗緑色になっていた。実際に解剖して腹部を開けてみると腸管や腹膜に黄色の固形物がたくさん付着しており、先生により卵ついていないかとのことでした。現場でもしばしば見られるそうで、このような症例を解剖できて運が良かったと思います。

実際の現場では今回のような細かい解剖はしないそうですが、やはり鶏の正常な構造がわかっていなければ理論で病気を発見することも難しいと思います。この解剖実習のように正常な鶏の構造を学ぶことは将来どの職に就いてもきっと役に立つと思いました。
～鶏 剖検 感想～

今回はめったにできない鶏の解剖ができ、非常に良い貴重な経験となりました。ありがとうございました。まず関係者の皆様に深く感謝申し上げたいと思います。しかも今回は種鶏の解剖をさせていただきのでとても貴重な解剖となりました。

種鶏は体型が大きく脂肪を多く含んでいて解剖がしづらかったです。また今回選んだ種鶏は腹膜炎のようなものをもっていて、腹部が全体的に緑がっていました。聞いてみると、産卵障害があり腹腔内で卵が破壊したのではないかということで、そんなことも起きるのだなんて驚くと同時に何か原因で発症したのか興味深いテーマでした。また鶏は鳥類ということで体のつくりも普段扱っている牛や犬などとはまったく異なっていて、それにより解剖方法もさまざまななので新しい発見もあり楽しかったです。特に胸骨をはずすところや、肺、腎臓を摘出するのが難しく感じました。また皮などは意外と手で裂いていくことができやすく、筋肉は死後変性によりすでに柔らかかったのが印象的でした。やはり出荷前とはいつもその多くは弱齢なために解剖しやすいのかと感じました。種鶏は骨も固く、解剖しづらかったです。

鶏は他の動物に比べサイズが小さいことでももちろん器官も小さいので、病気の診断で組織切片を作らなければならなくなった場合は非常に大変だなと感じました。また今回、先生に鶏のとても小さい喉頭部の気管入り口を見せていただきたき、鳥インフルエンザの検査の際で粘膜面採択にはここに綿棒を入れて採取するんだよと言われ、こんな小さい穴に、しかも食道に入らないようにして採材するのは大変だなと感じました。いつか検査するかも知られませんので、今回解剖で見せていただいたことは非常に有意義なものだったなと思います。

今回、普段できない鶏の解剖を二人で1頭もさせていただき、さらに1頭につき一人の先生もついていただき、非常に学習の効率が良かったと思います。先生方の貴重なお時間を割いていただき本当にありがとうございました。ぜひとも来年もよろしくお願いします。
今回の感染症実習では、1年生後期の解剖実習以来となる、鶏の解剖を家畜衛生保健所などの先生方の指導の下に行いました。

まず午前中に、鶏の病理解剖の手順や注意点などを先生方に画像や脳動を使って講義していただきました。鶏の解剖は、1年目の解剖実習で一度行なっただけで解剖の手順等は殆ど覚えていませんでした。そして、更に今回は病理解剖なので、鶏がどういった疾病を罹患しているのかどうか鑑定するために観察すべきポイントがあり、今回の病理解剖はなかなか苦労するかもしれないと思いつつ先生方の説明を聴いていました。

午後に、午前中の講義を踏まえた上で、実際に鶏の病理解剖を二人一組となって行ないました。手順等で分からないことがあれば先生方に尋ねるという形で行ない、作業を進めていきました。鶏は既に死んでいたものを用いたので、やや筋肉や内臓が軟化しており、上手く摘出できない職器もありましたが、先生方の指導のお陰で最終までやり遂げることができました。また午前の講義では聞くことができなかった、現場の先生ならではのことも聞くことができました。例えばマレック病を診断する際、通常坐骨神経の腫脹をもって判断しますが、時に、より腫脹の分かりやすい腕神経叢の付け根を診て判断するそうで（ただ脊椎を破壊する必要があり、手間がかかりるので実際に行なうことは少ないようです）。

今回二人に鶏一羽、現場の先生十数名、という非常に好条件の中実習をさせていただいた本当に有難いと思いましたし、とても楽しかったです。2年後の就職についてはまだ具体的に決めていませが、今回の実習は非常に貴重なものとなったと思います。こういった機会を与えてくださった先生方に本当に感謝を申し上げたいと思います。
鶏の病理解剖感想文

病理解剖のときは午前中にもらったプリントを見る暇なく、また実際にやって見るとどこを切ったら良いのかなど戸惑うことが多くて慣れるには経験の積み重ねが必要だと感じました。しかし胸腺や甲状腺、情帯などの位置、観察ポイントなどが事前に分かっていったので理解しやすく、午前中のスライドを使った説明があって良かったと思います。1年の時に鶏は1回解剖しましたが手順が全然違ったことが分かりました。脳の視床の存在、脾臓の形など忘れていたことが多いことに気づかされました。病変らしい部位はほとんど存在しませんでしたが健康な鶏の臓器を再確認できました。正常組織が分かっていないと病変部を見つけることはできないので良い復習になりました。病変写真はカラーで教科書に載っているので見比べるように思います。

解剖を担当してくれた先生は上腕静脈からの採血方法、ファブリキウス囊の日齢による大きさの違い、脊髄腰膨大部摘出時のポイントなどいろいろと詳しく教えてくれたのでとても勉強になりました。学生30人に先生1、2人とは比べものにならないほど有意義な時間を過ごせたと思います。ただ、まだ観察している最中に他の人たちが片付け始めたのでゆっくりと質問や観察ができなかったのが残念でした。種鶏の腎の生検器も見なかったです。予定時間を過ぎていたわけではなくなかったので早めに終わった班は休憩するなどで対応してもらい、もう少し時間を取ってほしいと思いました。

この実習はぜひ鳥インフルエンザが発生していない時期に毎年行ってほしいと思います。指導してくださった先生方、本当にありがとうございました。
鶏の病理解剖実習　感想

今回の実習はいろいろな意味で大変勉強になりました。

午前のスライドを用いた説明は、わかりやすく、スタンダードな鶏の病理解剖のやり方を学ぶことができました。また、細部における疑問点を質問形式で丁寧に答えてくださったのがとてもありがたく、よりよい理解につながりました。

午後は病理解剖実習でしたが、当然と言えば当然ですが、午前の説明よりもさらにためになる勉強をさせていただきました。やはり実習では教科書やスライドの説明では補いきることのできない重要な部分まで学ぶことができます。また、『実際にやってみる』ことにより、強く記憶に残すことができます。さらに、今回の病理解剖実習では生徒2人に対して検体も指教教官も1検体・1人ずつしていたいただきおかげでより練度の高い学習ができました。

指導教官の方にはマニュアル通りの的確な指摘だけでなく、病理解剖の際の裏ワザ（マレック病の際の坐骨神経以外での診断・ガンポロ病の疑いが強い場合のファプリキウス騒のの簡単な取り出し方等々…）など様々な為になることを教えていただき、とても勉強になり、感謝しています。

このような大変勉強になる場を用意してくださった教官の方々に感謝するとともに、来年の後輩たちにもぜひこのためになる実習を行ってあげていただくと思います。本当にありがとうございました。
2008/10/23
鶏解剖の感想

鶏の解剖は、一年生の時に一度行ったことがあるが、そのときはほとんど予備知識のない状態で行ったために、よく分かりずじまいであったと記憶している。今回はそれとは対照的に、在る程度予備知識の在る状態（といっても、個人差があるが、私の場合は、いつもの通り、最低の部類であろう）で臨むことが出来たので、持っていた本の中の知識を実際の現物に照らし合わせて確認する作業を行うことが出来、理解が深まった。

……いや、そうじゃないな。今回普段とは異なり、しっかりと理解できたのは、様々な分野のエキスパートの方が貴重なお時間を割いてサポートをしてくださったおかげに違いありません。(実際、僕の持っている脆弱な知識なんか屁の役にも立ちませんでした。)

解剖の手順等を、1つ1つ丁寧に指導してくださったので、安心して作業することが出来ました。本当にありがとうございました。
鶏の剖検授業を受けて

一年の時に一度鶏の解剖を行って以来、鶏の臓器構造を実際に目にする機会はほとんどなかった。今回、一年の時よりも少し知識が増えた状態で剖検した分、得られたものは多かったと思う。

まず、改めて牛や他の哺乳類との違いに驚いた。一番驚いたのは脾臓と精巣で、脾臓は色・形など全く異なり、初め見つけたときはそれが脾臓だとわからなかった。精巣も生体内での位置が思っていたよりも頭側だったので見つけるのが難しかった。他にも肺が肋骨と結合していて取り出しにくかったり、盲腸の大きさに驚いたり、とても面白かった。

鳥類については勉強する時間が少ないものの、鳥を飼う人が増えている中、やはり鳥の生態についての勉強も欠かせないものだと思う。そういった意味も含めて、今回の実習は本当に意味のあるものだった。

教えてくださる先生方もたくさんいらっしゃっていて、わからなくなったらすぐに教えていただき、いつも以上に学びやすい環境だった。忙しい中来てくださり、本当にありがとうございました。
鶏の病理解剖学実習の感想

今日は鶏の病理解剖の手順ということで、お忙しいなかたくさんの方に教えていただくことができ、たいへんよき経験ができました。鶏の解剖は1年生のときに1回しただけではちゃんと理解していない部分も多く、今回の実習によってより深く理解することができました。午前の講義の際も丁寧に手順を教えていただき、午後の解剖の際も比較的スムーズに解剖を行うことができました。手順に迷った際も、来てくださった先生方に細かく教えていただき、鶏の諸臓器、神経、血管をちゃんと見ることができ、さらに現場での方法や、その部位を見ることの意義も教えていただいて、とても勉強になりました。教科書ではしばしばマレック病での腫大した坐骨神経の写真を見ますが、今回、病変がない状態での坐骨神経の位置、露出のさせ方、その太さを確認することもでき、また、メセル憩室、ファブリキウス憩、脾臓、気管なども見ることができ、とてもおもしろかったです。自分の担当した鶏では特に病変はありませんでしたが、肺や腎臓の傷つきやすさ、楽薬の位置、筋胃や腺胃の粘膜の特徴を、身をもって知ることができました。

今回の実習では死ぬ鶏でしたが、またこのような機会があれば生きた鶏を用いての保定や静脈や心臓からの採血もやってみたいと思いました。今回のように、これからも現場で活躍していらっしゃる先生方にいろいろと教えていただける機会があれば、僕たちもたいへん貴重な経験ができるのでこれからもこのような講義が続いていて欲しいです。

今回はお忙しいなか来ていただいて、いろいろ教えてくださり、本当にありがとうございます。これからも今回の実習で学んだことを生かしながら勉強をしていきたいと思います。
鶏の解剖感想文

本日は御多忙の中御指導に来て頂き、ありがとうございました。鶏の解剖は1年の解剖実習の時に一度だけやったモリだったのですが、どうやっていいものが不安でしたら指導担当の先生に丁寧に教えて頂けたので理解を深めながら解剖をすることが出来ました。ファブリキウス囊の簡単な取り出し方など、普段鶏の御仕事にたくさん送られてられる先生ならではの裏ワザ的なものも教えて頂き、たいへん勉強になりました。本日は本当にありがとうございました。
家禽疾病学・感染症学実習感想レポート

今回は、家禽疾病学と感染症実習のコラボとして実習が実施された訳ですが、家禽の剖検だけでなく解剖学的な観点でもとても勉強になりました。午前中に午後からやる実習の手順の確認として各要所での観察の仕方や疾病時の病変の探し方を教わり、去年・今年の前期にやった病理学や感染症学の知識を必死に掘り起こしていました。

実習では、一年生の時に一度だけやった鶏の解剖の記憶はもはや全く役に立たず、午前中の解説を頼りに進めた感じでした。くじ運といってしまえばそれまでですが、僕の班は思い切り腐敗がすすんでいる検体をもらってしまい開腹の時から悪戦苦闘でした。鶏の解剖図が頭に浮かばなかったために、腐敗が進んで滅茶苦茶になった(境界も不明瞭になりつつある)臓器探しでは先生に頼りっぱなしでした。先生も「こんなに腐敗が進んでたら、学生には無理だよね。僕等でも難しいもん」と言って下しかが、そもそも、何処に何が在るか、各臓器の形状が頭から抜けているので新鮮でも腐敗していても大して変わりないなと思いました。しかし、組織が痛んでいたため刺離・摘出しも観察もとても真剣に臨めたので、逆に頭にはしっかり入りがありました。

また、これから寒くなってウイルスが蔓延するシーズンに入る前にと昨年より時期を早めて行ったと聞きましたが、先生方の上から下までの防備には驚きました。そのことについて訊ねると「実習用に持ってきたサンプルとはいえ、リスクがゼロってことはないよね?気の緩みで何か大変なものを持って帰ったら、それこそ大変ですよ。実習とは言え、私たちも怖いんだよ」とある先生が言っておられました。その一方で(手前のことですが)、帽子被りたくないなどと学生の実習気分のままその場に参加していたことが恥ずかしかったです。解剖実習ではなく「感染症実習」なのだと、もっと気を引き締めるべきでした。確かに、学生に触らせるものですから、ハイリスクのサンプルは選ばないことはわかりますが、姿勢としては、感染症と対峙しているのだという気持ちでないといけないのでです。今回実習では、知識や技術よりも精神面での収穫が一番であった気がしました。

色々な意味で、勉強になりました。有り難う御座いました
鶏の剖検実習について

このたびは、私たちのために鶏の剖検実習を開いて頂き、本当にありがとうございました。今回の実習は、私たちにとって、大変勉強になるものでした。すでにご存知かもしれませんが、私たちには鶏の解剖を行う機会が、ほとんどありません。今まで4年間勉強してきた中で、比較解剖学実習で1度、鶏の解剖を行っただけです。さらに、今回ののような病理解剖となると、一度もやったことはありませんでした。

しかも、2人で1羽というたくさんの鶏を用意して頂いたおかげで、他の人に遠慮することなく、思う存分、触って、見て、自分の手を動かして、観察、病理解剖をすることができました。また、病理解剖の方法についても事前に丁寧に教えていただき、実際に解剖しているときにも、たくさんの先生方がいて、分からないことを質問すると、嫌な顔一つせず、優しく教えていただきました。

少し残念だったのは、鶏が死亡してから、時間が経っていたものだったので、内臓が腐敗し、細かい観察ができなかったことぐらいでしょうか。ですが、大量な数の鶏の確保や鶏の腐敗の速さを考えると、それも仕方ないことだと思っておりますし、そのことを考慮しても余るくらい学べたことは、大きかったです。

これからも、大変だと思うが、私たちの後輩のために、このような貴重な実習および指導を行っていただけると大変嬉しいです。

最後に今回の解剖実習に際し、ご協力いただいた先生方に深く感謝いたします。本当に、どうもありがとうございました。
鶏の剖検を行って

今日は鶏の解剖を行い、とても丁寧に指導していただいたので、今までより、より深く理解することが出来ました。健康な鶏の臓器をしっかりと観察できたのでこれからの家禽疾病学の授業でも役に立つと思いました。二人で一羽だったのでじっくりわからないところが理解できるまで観察することができたのもよかったです。それぞれの臓器で哺乳類との大きな違いを見ることができました。自分が解剖したのは種鶏だったのでが、種鶏を解剖できるのは貴重な経験だと聞いたのでとても感謝しています。

お忙しい中多くの先生に来ていただき、これから獣医を目指す私たちにとってはとても有意義な時間になりました。どうもありがとうございました。

08年10月23日
鶏病理解剖を体験して

まず、たくさんの先生に来て頂き、このような機会を設けて頂いてありがとうございました。

鶏は食生活の点からとても身近な家畜ですが、普段はほとんど生きている姿を見ることはなく、学生生活においても触れられる機会があまりありません。今回鶏の解剖をするのは1年生の授業で行ったとき以来2度目ですが、他の動物の病理解剖や鳥の病気を学んだ後では、より多くのことを学べたように思います。

まず、鶏を消毒薬に漬けた後（気道病変を見逃さないように、消毒薬は口に入らないようにする）、背面から刀を入れ胸腔内観察しました。腹部から頭部までを切開し、両脚、胸腺、あいまいでしたのがさらに甲状腺、上皮小体を観察しました。次に喉を角骨に注意して腹部を開け、腹腔内臓器を観察しました。腹骨に食い込んだ肺、横隔膜は見当たらない。膨らんだ気管、二つの胃、丸みのある三角形のような脾臓、二つある盲腸、大きな腎臓・・・と牛との違いに感心するばかりでした。さらに心臓を摘出し、呼吸器系、消化器系の臓器を摘出しました。F囊を観察したのは初めてで、リンパ様に構造をしていた。坐骨神経の観察も行いました。これが肥大して場合マレック病が疑われるんです。また脊髄膨大部や中脳に病変が認められれば、鶏脳脊髄炎が疑われるようですね。最後に腸を開け、大腿骨内軟骨観察しました。

生身に鶏と、たくさんの先生のご指導があり、大変勉強になった2時間でした。しかし、できれば生きている状態で保定、採血ができたらよかったですね。

今後ともよろしくお願いします。どうもありがとうございます。
家禽疾病学・感染症学実習（08.10.23）感想文

鶏の解剖は1年生か2年生のときに解剖学実習でやったことがあるので少しは覚えているかとも思っていたのですが、今回は病理学解剖もあわせて手順の説明を聞いても果たして自分たちでできるだろうかと心配でした。あんなに丁寧に説明していただけるのに、いざ鶏一羽を目の前にすると案の定どうしていいかわからない、初めから手順を聞くような始末でした。それでも先生方は丁寧にひとつずつ答えてくれました。鶏は2人に一羽、先生方も2人に一人ついていただけるという贅沢な条件だったので、一つ一つの器官や手順を確認し、理解し納得しながら作業することができました。大雑把の実習ではよく分からないところを他の人に任せてしまいがちですが、さすがに2人で進めるとなると自分が何かしない限りまったくどうにもなりません。私たちは手順を飲み込んでない分かり遅れをとってしまったが、一つ一つ教えていただくことができたのでわからないまま流すということがなく、とても勉強になりました。

説明のスライドではよく分からなかったのですが、実際の鶏で見ると鶏の採血で注射針を血管に入れるのは難しそうでした。機会があればやってみたかったです。また、筋肉の皮が簡単に剥がれ、見覚えのある砂肝が現れたのには感動しました。それと最後に毛利先生の脳の取り出し方を教わることができたのも印象的でした。先生はもう一番最後だから焦ってもしょうがないと言っておられましたが、そのせいかその日習ったなかでも一番丁寧に教えていただいた気がします。

各先生方、お忙しいなか午前中には説明を、午後には2人に一羽の鶏、一人の先生という贅沢な条件での解剖実習を監督していただき本当にありがとうございました。楽しくて取組めてとても勉強になりました。どうもありがとうございました。